

畑田耕一先生から「子どもを対象にした塾だから、理科が苦手でも大丈夫です」とお誘いをいただき、第19回畑田塾「遺伝子と環境—あなたの未来を変えてみませんか」に参加しました。講師は、畑田先生のご長男である群馬大学生体調節研究所教授、畑田出穂先生です。

阪大の北山先生が司会を務められ、第1部は出穂先生のオリジナル曲の動画からはじまりました。桜の花びらに乗った動物の画像がとても可愛く、出穂先生の歌声も澄んだとても心地よいものでした。ところがその後は、突然学校の理科の授業のようになりました。塩基やゲノム、メチル化など難しい言葉が並びます。出穂先生は、できるだけ参加者が分かりやすいようにと言葉を選んで話をしてくださっていましたが、私はDNA（遺伝子）の二重らせん構造の画像を見ただけでじんましんがでそうになりました。ただ、DNAにはそれぞれの役割を表わすスイッチがあることは、知りませんでした。また、出穂先生は、そのDNAのスイッチ（エピジェネティクス）の研究者だということがわかりました。

第2部は、第1部とは違い、マウスやミツバチ、猫など事例がたくさんでていてとても分かりやすくなりました。それらの例から、クローンは同じ個体ができないこと、祖父のネズミの条件反射が孫の代まで影響を与えることなど、驚くような話が次々飛び出しました。さらに出穂先生は、「これらが正しいかどうかはこれから研究を重ねていかなければならない」といいながら、人間の出産や子育てに関するエピジェネティクスに関する最新の論文事例も紹介してくださいました。

それぞれの部の最後に質問タイムが設定されていたので、私は第1部では小児がんの遺伝子について、第2部では隔世遺伝について質問しました。他の方も臓器細胞のスイッチやがんの手術、祖父と孫の喫煙などの生活習慣について質問され、とても活発な素晴らしい講義になりました。

最後に畑田耕一先生から修了証と、手回しオルゴールとバッチの記念品を戴きました。オルゴールの夕焼け小焼けのメロディを聴きながら、過去に理科の授業で質問できたことなど今まで一度もなかったことを思い出しました。ひょっとしたらこの畑田塾で「理科が好きになる」という遺伝子のスイッチがONになったのかもしれない（笑）。有意義な時間をありがとうございました。